# 保健体育シラバス 高校1年

### 1. 学習の到達目標と評価の観点

|                     | 単位数  | 学科・学年・学級 | 使用教科書と補助教材         |  |  |  |
|---------------------|--|----------|--------------------|--|--|--|
| (科目)<br><b>保健体育</b> | 1 単位   | 第1学年     | • 高等学校 保健体育(第一学習社) |  |  |  |
| 学習の到達目標             | ・保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。  |          |                    |  |  |  |
| 評価の観点               | 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。 <主体性・多様性・協働性> 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 <思考力・判断力・表現力> 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 <知識・技能> |          |                    |  |  |  |

## 【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A:「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・・・100% B:「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・ 80% C:「努力を要する」状況と判断されるもの・・・・ 60% D:未提出,未実施・・・・・ 0%

# 2. 学習計画及び評価方法等

| 学期   | 自計画及O評価力 <i>运</i> 等<br>単一元 | 学習のねらい   | 学習のポイント,使用教材等  |
|------|----------------------------|--|--|
| 1 学期 | 心肺蘇生法                      | ・心肺蘇生法の意義や方法,手順について理解し適切に行う技能を身に着けることができるようにする。                |  |
|      | 日常的な応急処置                   | 熱中症の予防及び基本的な<br>応急手当の方法を理解し、<br>できるようにする。                      |  |
|      | 生涯を通じる健康                   | ・生涯の各段階の健康課題<br>を理解し、それに応じた<br>自己の健康管理や環境づ<br>くりができるようにな<br>る。 | ・思春期における心身の発達や性的成熟について理解する。  |
|      | 生涯を通じる健康                   | ・生涯の各段階の健康課題   | ・自分の行動への責任感や異  |
| 2 学期 |                            | を理解し、それに応じた自己の健康管理や環境づくりができるようになる。                             | 性の理解する。・性行動のととでは、これでは、これでは、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで、これで |

|          | 性感染症・エイズとその予防   | ・感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取り組み及び社会的な対策を行う必要があることを理解できるようにする。       | 今<br>る<br>・<br>性<br>必 | E感染症・エイズの現状と<br>後の課題について理解す<br>。<br>E感染症・エイズの予防に<br>、要な個人および社会の取<br>組みについて理解する。"                               |  |
|----------|---|--|-----------------------|--|--|
| 3 学期     | 生活習慣病の予防と回復<br>身体活動・運動と健康<br>食事と健康<br>休養・睡眠と健康<br>がんの予防と回復                                      | ・健康の保持増進と生活習慣病などの食事、体を回復をは、運動、食事とは養と回義をび睡眠の調和の早期のの早期のの見が社会的な対策が必要があることを理解できるようにする。 | 養い・かこ                 | ・身体活動・運動、食事、休養・睡眠と健康の関係について理解する ・がんには様々な種類があることやがんの発生について理解する ・精神疾患は誰しもが罹患しうること、若年で発症する疾患が多いこと、適切なあることについて理解する |  |
|          | 精神疾患の特徴精神疾患への対応   | ・精神疾患の予事と回復養生<br>では、<br>では、<br>では、<br>では、<br>では、<br>では、<br>では、<br>では、              | う疾置                   |  |  |
|          | 評価の観点   |  | 評価方法(具体例)             |  |  |
| のと<br>全に | の技能を身に付け、授業に積材なるよう改善及び修正を考える気を配ることができる。<br>体性・多様性・協働性>  | #  | 授業課題進捗状況(10%)         |  |  |
| 課題な学者    | の技能の習得状況を判断し、<br>解決に向けた練習方法を工夫した助言しあって学習できる。<br>の成果を判断し、あらたな課題<br>ムの課題を見つけ、解決に向い<br>考力・判断力・表現力> |  | 作成課題の提出(10%)          |  |  |
| ーマ 重要    | ぞれのルールを理解し、マナーンスができるよう努力と工夫を用語および関連事項を理解し。<br>識・技能>   | '才   | 定期考査(70%)<br>ノート(10%) |  |  |

### 【観点別評価】

1. ノート提出の場合

A:板書・パワポ等で提示した内容だけでなく、説明した内容のメモが記載され、 丁寧に記録されている。

B:到達目標を達成している。

C: 最低限の板書内容の転記にとどまっている。